

彙 報

会 長 梶 茂樹

——常任委員会——

2013 年度第 2 回常任委員会

日 時：2013 年 10 月 20 日(日)11:00～16:30
場 所：日本言語学会事務支局（中西印刷学
会フォーラム）

出席者：梶 茂樹(会長), 荻野綱男, 窪菌晴夫,
小林正人, 定延利之, 田野村忠温, 町田
健, 米田信子(以上常任委員), 吉田和彦
(事務局長)

オブザーバー：林 徹(編集委員長), 藤代
節(大会運営委員長), 鈴木孝明(広報
委員長), 加藤重広(夏期講座委員長),
内藤真帆, 森 若葉(以上事務局委員)

[報告事項]

- (1) 現在の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員について確認がなされた。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第 147 回大会(2013 年秋季大会)：2013
年 11 月 23～24 日, 神戸市外国語大
学(大会実行委員長：武内紹人氏)
 - 第 148 回大会(2014 年春季大会)：2014
年 6 月 7～8 日, 法政大学(大会実行
委員長：間宮厚司氏)
 - 第 149 回大会(2014 年秋季大会)：2014
年 11 月(予定), 愛媛大学(大会実行
委員長：塚本秀樹氏)
 - 第 150 回大会(2015 年春季大会)：2015
年 6 月(予定), 大東文化大学(大会
実行委員長：福盛貴弘氏)
 - 第 151 回大会(2015 年秋季大会)：2015
年 11 月(予定), 名古屋大学(大会実
行委員長：未定)
- (3) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 言語系学会連合からの報告

- ・日本言語学会選出の運営委員である窪
菌晴夫氏から、今年の事業計画として
「UALS ことばカフェ」がすでに東京で
開催され、今後福岡で開催予定であるこ
とが報告された。
- (5) 日本言語学会論文賞の選考結果につ
いて
 - ・論文賞選考小委員会からの推薦に基づ
いて、2013 年度日本言語学会論文賞が以
下のように決定したことが会長より報告
された。
 - 林下 淳一氏「On the Nature of Inverse
Scope Readings」(『言語研究』143 号)
 - (6) 日本言語学会大会発表賞の選考結果に
ついて
 - ・大会発表賞選考小委員会からの推薦に基
づいて、第 146 回大会(2013 年 6 月)
における大会発表賞が以下のように決定
したことが会長より報告された。
 - 梅谷博之氏「モンゴル語における
preverb と動詞との間の結合度」
倉部慶太氏「ジンポー語における成節鼻
音の声調について」
野村 純也氏「Licensing Null Associative
Plurals in Kaqchikel」
安永大地氏(共同発表者, 矢野雅貴氏,
小泉政利氏, 八杉佳穂氏)「カクチケ
ル語の基本語順と選好語順の関係につ
いて」
 - (7) 外部団体の活動への協力について
 - ・以下の 3 つの研究集会について、日本言
語学会に対して後援依頼があり、メール
会議によって常任委員会です承されたこ
とが説明された。詳細は学会ウェブサイ
トで会員に対して公開された。
 - みんなく手話言語学フェスタ 2013 (2013
年 9 月 27～29 日, 国立民族学博物館)
 - 第 5 回国際常民文化研究機構国際シンポ
ジウム「渋沢敬三の資料学—日常史の
構築—」(2013 年 12 月 7～8 日, 神
奈川大学横浜キャンパス)
 - The 14th Conference on Laboratory
Phonology (2014 年 7 月 25～27 日,
国立国語研究所)

- (8) 東日本大震災の被災会員に対する会費免除について
 - ・8件の申請があり、申請理由が妥当と判断されたため、すべての申請を認めたことが報告された。

[審議事項]

- (1) 会則の変更について
 - ・第16条第2項の「編集委員長は、個人会員の互選により選出する。任期は3年とし、留任しないものとする。」という文言を「編集委員長は、個人会員の互選により選出する。任期は3年とし、1期に限る。」と変更することが承認され、次回評議員会で審議することになった。
- (2) 大会発表規程の変更について
 - ・大会発表規程第2項の問題点についてあらためて意見交換がなされた。当面は規程の変更を行わず、運用で対応することになった。
- (3) 大会発表賞について
 - ・大会発表賞の審査に関わるコストの削減などの問題について、継続審議を行った。
- (4) 大会における手話通訳者の手配について
 - ・2013年秋季大会に向けて手話通訳の希望はまだないが、今後希望がある場合の対応について協議した。
- (5) 第150回記念大会について
 - ・2015年春に大東文化大学で開催される第150回大会を記念大会とすることについてはかられ、今後大会運営委員会と開催校とのあいだで企画を進めることが了承された。
- (6) 学会ウェブサイトの英語専用ページ作成について
 - ・国際情報発信強化のために作成する『言語研究』掲載論文にかかわる英語専用ページについてはかられ、今後広報委員会、中西印刷、事務局とで作業を進めていくことになった。
- (7) 2014年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（国際情報発信強化）の応募について

- ・2014年度科学研究費補助金研究成果公開促進費の応募に向けて、計画調書の内容について審議した。11月中旬の提出締め切りに向けて会長、事務局長、編集委員長を中心に文案を作成することが了承された。

(8) 学会法人化について

- ・学会法人化とそれに関連する問題について税理士から受けた説明について報告がなされた。引き続き意見交換がなされた結果、法人の役員選挙方式と日本言語学会の役員選挙方式とのあいだには齟齬があるため法人化の早急な実現は無理であるが、その一方で税務対策を怠ってはならないことが合意された。次回評議員会で具体的なスケジュールについて審議されることになった。

(9) 会員名簿の作成について

- ・来年度に作成予定の会員名簿について、従来通り紙媒体の会員名簿を作成するか、それに取って代わる、あるいはそれと併用する電子システムを導入するかどうかについてはかられた。この問題は評議員会の審議事項とすることにした。

——評議員会——

2013年度第2回評議員会

日時：2013年11月23日(土)10:30~12:30
 場所：神戸市外国語大学 本部棟2階大会議室

出席者：梶 茂樹(会長)、加藤重広、佐々木冠、小野尚之、小泉政利、伊藤たかね、上野善道、遠藤喜雄、大堀壽夫、生越直樹、影山太郎、風間伸次郎、窪園晴夫、坂原茂、滝浦真人、林 徹、松村一登、北野浩章、佐久間淳一、清水克正、堀江 薫、工藤真由美、定延利之、佐藤昭裕、庄垣内正弘、沈 力、田窪行則、野田尚史、藤代 節、益岡隆志、三原健一、吉田和彦、吉田 豊、桐生和幸、酒井 弘、塚本秀樹、辻 星児、和田 学、青木博史、上山あゆみ、江口 正、久保智之(以上、評議員41名)

委任状：23名

オブザーバー：井上 優（会計監査委員），
武内紹人（大会実行委員長），間宮厚司
（次回大会実行委員長），尾谷昌則（次回
大会実行委員），鈴木孝明（広報委員長），
内藤真帆，森 若葉（以上，事務局委員）

議事に先立ち，会長より開催校である神戸市
外国語大学に対する謝意が表された後，大会
実行委員長の武内紹人氏より挨拶があった。

[報告事項]

- (1) 役員・組織・任期について
 - ・現在の組織・役員・任期が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第148回大会（2014年春季大会）：2014年6月7～8日，法政大学市ヶ谷キャンパス（大会実行委員長：間宮厚司氏）
 - 第149回大会（2014年秋季大会）：2014年11月15～16日，愛媛大学（大会実行委員長：塚本秀樹氏）
 - 第150回大会（2015年春季大会）：2015年6月（予定），大東文化大学板橋キャンパス（大会実行委員長：福盛貴弘氏）
 - 第151回大会（2015年秋季大会）：2015年11月（予定），名古屋大学（大会実行委員長：未定）
- (3) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 言語系学会連合からの報告
 - ・日本言語学会選出の運営委員である窪田晴夫氏から，6月22日に意見交換会が開かれたこと，および昨年度に続いて「UALS ことばカフェ」が8月3日に東京で開催され，今後2月1日に福岡で開催予定であることが報告された。
- (5) 日本言語学会論文賞の選考結果について
 - ・論文賞選考小委員会からの推薦に基づいて，2013年度日本言語学会論文賞が以下のように決定したことが会長より報告された。

林下淳一氏“On the Nature of Inverse Scope Readings”（『言語研究』143号）

- (6) 日本言語学会大会発表賞の選考結果について
 - ・大会発表賞選考小委員会からの推薦に基づいて，第146回大会（2013年6月）における大会発表賞が以下のように決定したことが会長より報告された。
 - 梅谷博之氏「モンゴル語における preverb と動詞との間の結合度」
 - 倉部慶太氏「ジンポー語における成節鼻音の声調について」
 - 野村純也氏“Licensing Null Associative Plurals in Kaqchikel”
 - 安永大地氏（共同発表者，矢野雅貴氏，小泉政利氏，八杉佳穂氏）「カクケル語の基本語順と選好語順の関係について」
- (7) 外部団体の活動への協力について
 - ・以下の3つの外部団体の活動について後援依頼があり，常任委員会で審議のうえ了承されたことが報告された。
 - みんぱく手話言語学フェスタ 2013（2013年9月27～29日，国立民族学博物館）
 - 第5回国際常民文化研究機構国際シンポジウム「渋沢敬三の資料学—日常史の構築—」（2013年12月7日～8日，神奈川大学）
 - The 14th Conference on Laboratory Phonology（2014年7月25～27日，国立国語研究所）
- (8) 東日本大震災の被災会員に対する会費免除について
 - ・8件の申請があり，申請理由が妥当と判断されたため，すべての申請を認めたことが報告された。
- (9) 大会における日本語文字通訳の手配について
 - ・聴覚障害を持つ会員から第147回大会でのノートテイクの手配に関する要望があり，常任委員会で審議した結果，手話通訳者の手配の場合と同じく学会がその費用を補助すること，及びこれに関する具体的な申し合わせが報告された。

(10) その他

- ・ CIPL 総会 (general assembly) の日本代表について
2012年11月24日の評議員会において CIPL 総会の日本代表の交代についてはかられ、田窪行則氏の後任として町田健氏を推薦することが承認されたが、その後田窪氏が実行委員会 (executive committee) のメンバーに選出された結果、引き続き CIPL 総会の日本代表を務めなければならないために、町田氏を副日本代表とすることが報告された。
- ・ 次回 148 回大会の開催校を代表して間宮厚司大会実行委員長から挨拶があった。

[審議事項]

(1) 会則の変更について

- ・ 第 16 条第 2 項「編集委員長は、個人会員の互選により選出する。任期は 3 年とし、留任しないものとする。」を「編集委員長は、個人会員の互選により選出する。任期は 3 年とし、1 期に限る。」と修正することが承認された。

(2) 賛助会員の入会申し込みについて

- ・ 賛助会員として入会を希望するという団体からの申し出に対して、慎重に審議した結果、学会活動と経常的な関わりのある学術関係組織に該当しないという理由で入会は認められないという常任委員会の提案が承認された。

(3) 2014 年度科学研究費補助金研究成果公開促進費 (国際情報発信強化) の応募について

- ・ 本年 11 月に日本学術振興会に提出した平成 26 年度以降の研究成果公開促進費 (国際情報発信強化) に関する計画調書の内容について、吉田和彦事務局長から説明があり了承された。

(4) 学会法人化および関連する問題について

- ・ 学会法人化およびそれに関連する法人税の問題について税理士から受けた説明について、吉田和彦事務局長から報告がなされ、それを受けて法人化に関するさま

ざまな意見が出された。審議の結果、学会組織と法人組織との不整合を考えると法人化を早急に実現することは無理であるが、税務対策を怠ってはならないという常任委員会の案が認められた。そして本年 12 月に税理士と業務契約を締結し、2014 年 4 月 1 日に収益事業開始届出を行うことが了承された。

(5) 会員名簿の作成について

- ・ 来年度に作成予定の会員名簿について、過去の会員アンケートでは、紙媒体の名簿は使わないが必要であるという意見が多くみられるために、当面紙媒体の名簿を廃止しないという提案が梶会長からなされた。その一方で、利便性に富むオンライン会員情報管理システムへの移行を考える時期でもあるため、今後新たな会員アンケート調査などにより検討を重ねていくことが了承された。

——大会運営委員会——

2013 年度第 2 回大会運営委員会

日 時：2013 年 9 月 10 日 11:00 ~ 16:00

場 所：神戸市外国語大学 三木記念館

出席者：藤代 節 (大会運営委員長)、青木博史、河内一博、斎藤倫明、芝垣亮介、滝浦真人、玉岡賀津雄、野村益寛、本間猛、宮本陽一、米田信子 (以上、大会運営委員)、武内紹人 (大会実行委員長)、川口正通、下地早智子、竹越 孝、林範彦、益岡隆志 (以上、大会実行委員)

[報告事項]

- (1) 次期大会運営委員長として青木博史委員を会長に推薦したことが報告された。
- (2) 第 146 回大会 (茨城大学) の反省点と第 147 回大会 (神戸市外国語大学)、第 148 回大会 (法政大学) の準備状況が報告された。

[審議事項]

- (1) 第 147 回大会の応募要旨審査を行った。審査の結果、口頭発表 64 件 (ただし、

後日1件取り消し。応募93件), ポスター発表10件(応募14件), ワークショップ4件(応募4件)を採択した。

- (2) プログラムの編成を行い, 口頭発表の司会依頼先を検討した。
- (3) 主たる使用言語を英語とするワークショップ(1件)につき, 英語とともに日本手話を使用する発表を含むため, 予稿集原稿に部分的に和文を使用したい旨の希望(和文要旨の挿入)が企画者からあり, 審議の結果, 当該ワークショップの予稿については, 部分的な和文使用を認めることにした。(予稿頁数には変更なし。)
- (4) 応募時に提出する「発表要旨」(A4紙片面1枚)と採用後提出の「大会発表要旨」(400字または120 words)との名称の混同による作成様式取り違えを避けるための文言改訂について検討した。(継続審議)

[大会実行委員会との打ち合わせ]

- (1) 会場校から説明を受け, 各種会場設営, 懇親会運営, 使用機器, プログラム掲載情報などについて検討, 確認を行い, 会場予定の学舎, 講義室などを見学した。

[その他]

- (1) 次期大会運営委員の委嘱について
任期満了にて退任の6名の委員に交代する次期大会運営委員を以下の方々をお願いした。
小野寺典子(青山学院大学), 佐久間淳一(名古屋大学), 佐々木冠(札幌学院大学), 千田俊太郎(京都大学), 塚本秀樹(愛媛大学), 渡辺 己(東京外国語大学)
- (2) 剽窃の疑いのある発表についての対応
第147回大会の口頭発表1件に剽窃の疑いがあることについて聴衆から大会運営委員に指摘があったため, 委員会に予稿集原稿の内容を検討し, 剽窃の可能性が高いことを事務局に通知した。

——広報委員会——

- ・英語版ホームページの改善と充実をはかるため, 各項目に関して具体的な検討を行い, 順次, 改善にむけた作業を開始した。
- ・『言語研究』第144号の刊行にもなって, 目次と論文要旨のホームページを更新するとともに, 刊行より1年を経過した号に掲載された論文の全文をホームページからダウンロードできるように, 作業を進めた。
- ・学会関連情報(委員の交代, 第147回大会に関連する情報, 学会賞, 公募情報, 研究会情報など)を逐次学会ホームページに掲載した。
- ・酒井 弘委員, 長谷部陽一郎委員, 江口正委員の後任として, 松井理直氏(大阪保健医療大学), 須田孝司氏(富山県立大学), 菊澤律子氏(国立民族学博物館)の3名が新たに広報委員に加わった。

——夏期講座委員会——

- ・2013年10月1日に委員が交代した。小野創, 加藤重広(委員長), 佐久間淳一(夏期講座2014実行委員長), 下地理則, 西村義樹, 宮本陽一。
- ・夏期講座2014実行委員を決定した。久保田一充, 佐久間淳一(実行委員長), 白 明学。
- ・夏期講座2012から夏期講座2014への引き継ぎを, 2013年8月8日名古屋大学文学部にて行った。
- ・夏期講座2014(2014年8月18日(月)～23日(土), 名古屋大学文学部)の開講科目と講師が確定した。
〈初級〉生成文法(長谷川宏), 〈初中級〉フィールド言語学(千田俊太郎), 心理言語学(時本真吾), 音韻論(田中真一), 対照言語学(生越直樹), 形態論(渡辺己), 〈中上級〉生成文法(三原健一), 認知言語学(高橋英光), 日本語文法A(三宅知宏), 日本語文法B(野田春美), 語用論(滝浦真人), 意味論(初山洋介)
- ・夏期講座2014より新しい参加登録システ

ムを構築するため準備を始めた。

- ・夏期講座 2014 の予算案を評議員会に報告した。

——小委員会——

論文賞選考小委員会

- ・『言語研究』140～143号に掲載された論文から、2013年度の日本言語学会論文賞の受賞候補論文を選考し、会長への推薦を行った。

大会発表賞選考小委員会

- ・2013年10月21日(月)にトラスティカンファレンス・丸の内会議室(東京駅)において2013年度第3回会合を開き、第147回大会(神戸市外国語大学)での大会発表賞の審査対象発表と審査員候補、審査手順を決定した。
- ・2013年12月9日(月)にトラスティカンファレンス・丸の内会議室(東京駅)において2013年度第4回会合を開き、第147回大会(神戸市外国語大学)での大会発表賞の受賞候補発表を選考し、その結果を12月16日に会長へ報告した。
- ・平成25年度日本言語学会大会発表賞(第146回大会、第147回大会)の選考にあたり、延べ80名の方々に審査員としてご協力いただきました。心よりお礼申し上げます。以下に、許諾をいただいた方のお名前を掲載させていただきます(敬称略、五十音順)。

青木博史	五十嵐陽介	伊藤智ゆき
井上 優	今里典子	岩井康雄
上田由紀子	上山あゆみ	内堀朝子
内海敦子	江口 正	遠藤喜雄
大崎紀子	奥 聡	生越直樹
越智正男	角道正佳	梶 茂樹
加藤重広	川澄哲也	岸田文隆
岸本秀樹	北野浩章	金水 敏
久保智之	栗林 裕	呉人 恵
小泉政利	後藤 斉	斎藤倫明
酒井 弘	定延利之	佐野まさき
三間英樹	芝垣亮介	庄垣内正弘

沈 力	滝浦真人	竹沢幸一
武内紹人	立石浩一	田中英理
田中伸一	田端敏幸	田村幸誠
千田俊太郎	塚本秀樹	津曲敏郎
寺田 寛	時本真吾	那須紀夫
野田尚史	野村益寛	萩原裕子
Vance, Timothy	福井 玲	福嶋教隆
藤井友比呂	藤家洋昭	星 英仁
本間 猛	益岡隆志	松岡和美
水口志之扶	三宅知宏	宮本陽一
由本陽子	渡辺 己	

平成25年度日本言語学会大会発表賞選考小委員会

窪蘭晴夫(委員長)
青木博史
長谷川信子
藤代 節

——事務局——

- (1) 税理士との面談・業務契約の締結
 - ・2013年7月3日に学会事務局で会長と事務局長が税理士に会い、法人税および源泉徴収の対象となる学会事業について説明を受けた。
 - ・2013年12月10日に学会事務支局において、日本言語学会は2013年11月23日の評議員会で承認された内容通りに税理士安谷明と業務契約を締結した。
- (2) 第147回大会において発生した問題に関する調査について
 - ・147回大会での研究発表について剽窃の疑いがあるという聴衆および大会運営委員会からの指摘を受けて、田野村忠温、野村益寛、藤代 節、吉田和彦(委員長)を委員とする調査委員会が設置され、慎重な調査の結果、剽窃行為があったことが会長に報告された。

第147回大会において発生した問題に関する対応について

第147回大会(2013年秋季、神戸市外国語大学)における1件の口頭発表について、

聴衆の方からの連絡を受けて調査委員会を設置して調査を行った結果、剽窃による発表であったことが判明しました。これを受けて、学会ホームページで公開している大会プログラムおよび大会発表要旨から当該の口頭発表に関する情報を削除しました。また、『言語研究』本号所載の大会発表要旨からも当該発表は除外しました。（当該発表は、発表内容は未発表のものに限るとする大会発表規程にも違反していることを確認しています。）

最近発表された日本学術会議の提言「研究活動における不正の防止策と事後措置—科学の健全性向上のために—」にもある通り、科学における研究不正は、科学の健全な発展を妨げ、科学に対する社会的評価を損ない、人々が科学に託した夢と信頼を裏切る行為です。今回のような事態を繰り返すことのないよう、会員各位には研究倫理を十分に自覚して研究を誠実に遂行するようお願いします。

日本言語学会会長
梶 茂樹

第 147 回大会

期日 2013 年 11 月 23 日 (土)・11 月 24 日 (日)

会場 神戸市外国語大学

公開シンポジウム 11 月 24 日 (日) 13:20 ~ 16:30

「日本語研究とその可能性—音韻・レキシコン/語彙・文法を中心に—」

		企画・司会	益岡 隆志
(S 1)	濁りの表示と不透明性—2 種類の有声表示による透明化—		田中 伸一
(S 2)	個別言語的視点から見た日本語の形態音韻論 —連濁と濁音化, 語頭濁音形—		高山 知明
(S 3)	「名詞+動詞」型複合語の統語範疇と意味カテゴリー		由本 陽子
(S 4)	漢語の分類を考える—複合字音語基分類再考—		斎藤 倫明
(S 5)	言語類型論から見た日本語文法研究の可能性と挑戦課題 —主節と従属節の相互作用を中心に—		堀江 薫
(S 6)	世界の言語研究に貢献できる日本語文法研究とその可能性 —「する」言語と「なる」言語, 高コンテキスト言語と低コン テキスト言語の再検討を中心に—		野田 尚史

口頭発表

—第 1 日 (11 月 23 日 (土)) 13:00 ~ 18:00—

・ A 会場

(A 1)	13:00 ~	日本手話の非手指移動表現についての一考察	高嶋由布子
(A 2)	13:35 ~	日本手話における「いる」「ある」交替と叙述の種類	原田なをみ 高山智恵子
(A 3)	14:15 ~	山西方言における果摂一等韻母の歴史的音韻変化	中野 尚美
(A 4)	14:50 ~	孤立的反復の文法的理解—日本語と中国語の VN 型合 成的表現を例に—	程 莉
(A 5)	15:40 ~	「だけ」と「ほど」に見られる比例のあり方の違い —一定量という観点による考察—	蔡 薫婕
(A 6)	16:15 ~	イ落ち構文をめぐる二つの視点—全体か部分か—	今野 弘章
(A 7)	16:55 ~	日本語における二重他動詞由来他動詞の統語構造と意 味	山口 貴也
(A 8)	17:30 ~	日本語「XはYがZ」構文の主語と述語の尊敬語化	吉田 健二 島崎 冬彦

・ B 会場

(B 1)	13:00 ~	英語における結果産物指向結果構文	貝森 有祐
(B 2)	13:35 ~	「N 難民」の意味拡張: メンタル・スペースの観点か ら	森 博
(B 3)	14:15 ~	Cognitive Typology and Second Language Acquisition Beyond Motion: The Effects on Change-of-State Framing	Ryan SPRING Naoyuki ONO
(B 5)	15:40 ~	部分構造の分類について	三山美緒子
(B 6)	16:15 ~	量化の副詞と個体レベル述語	水谷 謙太
(B 7)	16:55 ~	ホドを用いた程度表現の解釈と構造	東寺 祐亮
(B 8)	17:30 ~	一般量化理論と日本語	水口志乃扶

。 C 会場

- (C 1) 13:00 ~ 依頼の断り難さを構成する諸要因一日中の文化差と日本語学習に着目して
黄 郁蓄
玉岡賀津雄
ブラーエヴァ・マリア・エドアルドヴナ
- (C 2) 13:35 ~ 英語の慣習的依頼表現と談話の流れ：“Do you want to …?” や “Would you like to …?” を用いた依頼の分析
林 可奈子
- (C 3) 14:15 ~ 「最後の手段としての再解析」再考：日本語の関係節
山田 敏幸
修飾曖昧性における任意の再分析
広瀬 友紀
- (C 4) 14:50 ~ 会津方言に於けるイントネーションと終助詞の関係
ギンズバーグ ジェイソン
ウィルソン イアン
金子恵美子
小笠原奈保美
- (C 5) 15:40 ~ L1 言語獲得における複合動詞「X スル」のプロソ
ディーとチャンク化
巽 智子
- (C 6) 16:15 ~ 日本語受動文における構造的プライミング効果
トウ エン
一文組立て課題を用いた検討—
田中 幹大
- (C 7) 16:55 ~ 音象徴の普遍性と個別性—韓国語オノマトペの韓国
語・日本語母語話者による判断から—
黒沢 晶子
崔 絢喆
- (C 8) 17:30 ~ 中期朝鮮語の補文節について
小山内優子

。 D 会場

- (D 1) 13:00 ~ Negative Polarity Item in Dhaasanac
Sumiyu NISHIGUCHI
- (D 2) 13:35 ~ A Comparative Study of Japanese and Mongolian Nominals
Lina BAO
Megumi HASEBE
Hideki MAKI
- (D 3) 14:15 ~ Accusative Case in the History of Japanese
Hideki MAKI
Naohiro TAKEMURA
Megumi HASEBE
- (D 4) 14:50 ~ The Syntax of Spontaneous Sentences in Japanese Dialects
and its Implications for the Structure of *v*P
Fumikazu NIINUMA
Hideya TAKAHASHI
- (D 5) 15:40 ~ Topicless constructions asthetic statements in Tagalog
Paul Julian SANTIAGO
- (D 6) 16:15 ~ 移動表現から見たタガログ語の他動性とヴォイス
山本 恭裕
- (D 7) 16:55 ~ Pair-list readings : 日本語に基づく考察
林下 淳一
- (D 8) 17:30 ~ 日本語の接尾辞タチ・ラの複数性と特定性について
金子 真

。 E 会場

- (E 1) 13:00 ~ 日本語数量構文の統語構造
辰己 雄太
- (E 2) 13:35 ~ 抜き取りを認可する副詞節の統語分析
吉村 理一
—通言語的観点から—
- (E 3) 14:15 ~ 多層 *v*P 仮説に基づく受動文の格吸収
石野 尚
- (E 4) 14:50 ~ 名詞的モダリティ表現の解釈について
秋庭 大悟
- (E 5) 15:40 ~ 福岡方言における「バイ」「タイ」の統語的分布
木戸 康人
- (E 6) 16:15 ~ 日本語自由選択表現の分布と統語構造
小田 博宗

- (E 7) 16:55 ~ 中国語における CQWC 構文について—非移動分析から 徐 佩伶
- (E 8) 17:30 ~ 非構成素等位接続に関する句構造文法に基づく分析の優位性を示す更なる証拠 矢田部修一
- 。 F 会場
- (F 1) 13:00 ~ 現代中国語の剰余否定—「差点」と「難免」を中心に 姚 碧玉
- (F 2) 13:35 ~ 中国語とタイ語の移動表現の類型論タイプ 高橋 清子
- (F 3) 14:15 ~ シンハラ語における授受補助動詞と結び付く前項動詞について デヒピティヤ スランジ ディルーシャ
- (F 4) 14:50 ~ オリヤ語における二重目的格制約 山部 順治
- (F 5) 15:40 ~ 韓国語の *neunde* と日本語のケドについて 池 玫京
- (F 6) 16:15 ~ 韓国語の〈連体修飾節+名詞〉構造における語形成の位置づけ—日本語との比較— 丁 仁京
- (F 7) 16:55 ~ モンゴル語の *one* について—日本語のアノとの対照— 巴雅尔都楞
- (F 8) 17:30 ~ 動作主が不特定の人為的事態の表現—日本語の受動構文とロシア語の不定人称文— 副島 健作
- 。 G 会場
- (G 1) 13:00 ~ トルコ語における再帰代名詞の解釈に関する一考察
カフラマン バルシュ
オズベッキ アイドゥン
- (G 2) 13:35 ~ 現代ウイグル語の分詞について 新田 志穂
- (G 3) 14:15 ~ モンゴル語の名詞・形容詞・副詞の区分 梅谷 博之
- (G 4) 14:50 ~ 保安語積石山方言における一人称複数代名詞の包括形と除外形—その区別と逆転— 佐藤 暢治
- (G 5) 15:40 ~ バスク語レクンベリ方言における自動詞分裂の意味的・形式的動機 石塚 政行
- (G 6) 16:15 ~ バスク語アスベィティア方言の〈ABS-V-AUX〉の構造と再帰行為・相互行為 吉田 浩美
- (G 7) 16:55 ~ タガログ語の動詞接辞 *ma-* の多義性: 自発, 意図成就, 可能, 受身 長屋 尚典
- (G 8) 17:30 ~ ジンポー語方言のサブグループピングに向けて 倉部 慶太
- 。 H 会場
- (H 1) 13:00 ~ 規則適用としての連濁: 事象関連電位計測実験の結果から 小林 由紀
杉岡 洋子
伊藤たかね
- (H 2) 13:35 ~ 幼児期の連濁獲得を規定する諸要因の検討—有標性の原理と語構造の影響をめぐって 杉本 貴代
- (H 3) 14:15 ~ ロシア語の硬口蓋化にみる子音・母音間の相互作用 渡部 直也
- (H 4) 14:50 ~ 対立が“不完全に”中和した語の音声知覚: ロシア語の語末無声化の事例 松井 真雪
- (H 5) 15:40 ~ マレー語におけるフットの正体: 3つの音韻的証拠から 橋本 大樹
- (H 6) 16:15 ~ 後部要素が二字漢語の複合語アクセントについて 田端 敏幸
- (H 7) 16:55 ~ 三重県尾鷲市方言の単純動詞アクセントと‘第三の式’ 平田 秀

(H 8) 17:30 ~ 波崎方言における有声重子音回避

佐々木 冠

ワークショップ

—第2日(11月24日(日))10:00~12:00—

ワークショップ1(第2学舎501)

(W 1) 語彙意味論の潮流: 様態・結果の相補分布仮説とその先に見える世界

企画: 江口 清子

司会: 由本 陽子

コメンテーター: 岸本 秀樹

(W 1-1) 「手段」を表す動詞における様態・結果の解釈

境 倫代

(W 1-2) 見せかけの結果から見る様態・結果相補分布仮説

白杵 岳

(W 1-3) イベント統合の類型から見る様態・結果の相補分布

江口 清子

ワークショップ2(第2学舎502)

(W 2) レキシコンとCPシステムのはざま

企画・司会: 長谷部郁子

(W 2-1) 語彙的モダリティ表現としての「V+ -てくる」表現

長谷部郁子

(W 2-2) 時制の一致の視点から考えるCPとレキシコンの関係

本多 正敏

(W 2-3) 日本語における「感覚文」と主要部移動

神谷 昇

ワークショップ3(第2学舎503)

(W 3) Current Issues in Sign Language Studies (手話言語学の最近の関心領域)

Organizer: Editorial Committee (Linguistic Society of Japan)

企画: 日本言語学会編集委員会

Workshop Moderator: Norie OKA 司会: 岡 典栄

Commentator: Susan FISCHER コメンテーター: スーザン フィッシャー

(W 3-1) Commands in Turkish Sign Language (トルコ手話における命令)

A. Sumru ÖZSOY (A. スムル オズソイ)

Meltem KELEPİR (メルテム ケレピル)

Derya NUHBALAOĞLU (デルヤ スフバラオール)

Emre HAKGÜDER. (エムレ ハクギュデル)

(W 3-2) On the Structure of wh-final Clauses in Japanese Sign Language

(日本手話における wh-final 文の構造について)

Asako UCHIBORI (内堀 朝子)

Kazumi MATSUOKA (松岡 和美)

(W 3-3) Perceptive Non-manual Markers in Japanese Sign Language

(知覚を表す日本手話の非手指標識 (NMM))

Yasuhiro ICHIDA (市田 泰弘)

Takeshi NOGUCHI (野口 武史)

(W 3-4) Expressing Modality: A Descriptive Study of Japanese Sign Language

(手話のモダリティ表現: 日本手話の記述的研究)

Hitomi AKAHORI (赤堀 仁美)

Uiko YANO (矢野羽衣子)

Kazumi MATSUOKA (松岡 和美)

Norie OKA (岡 典栄)

ワークショップ4 (第2学舎 504)

- (W 4) 標準語との接触による方言アクセントの変化
 企画・司会：窪蘭 晴夫
 コメンテーター：上野 善道
 窪蘭 晴夫
 (W 4-1) 鹿児島方言におけるアクセントの変化
 (W 4-2) 長崎方言におけるアクセントの変化
 松浦 年男
 佐藤久美子
 (W 4-3) 大阪方言における外来語アクセントの変化
 田中 真一

ポスター発表 11月24日(日) 11:30～12:50

- 。A会場
 (P 1) 中国人日本語学習者の「人」を表す接尾辞を含む複合語彙の習得
 大和 祐子
 に及ぼす諸要因
 玉岡賀津雄
 初 相娟
 (P 2) Asymmetrical Phonological Activation When Recognizing Words
 in a Second Language Kyoko HAYAKAWA
 Rinus VERDONSCHOT
 Katsuo TAMAOKA
 (P 3) ウズベク語の動名詞 -(i)sh による連体修飾
 日高 晋介
 。B会場
 (P 4) Cad é an dóigh 'how' in Irish
 Dónall P. Ó BAOILL
 Hideki MAKI
 (P 5) 上昇調文末表現「～くない」の文法化と統語構造
 團迫 雅彦
 (P 6) 連体修飾節におけるインドネシア語の di- 受動態の統語的・語用
 論的特徴—日本語との比較を通じて— シルフィア ウィジャヤ
 堀江 薫
 。C会場
 (P 7) 日本語の数量詞遊離と限定解釈
 平川 八尋
 (P 8) ベトナム語の反事実条件表現における接続詞 *nếu* と *già* の特徴
 について ダン ティ ホン ゴック
 (P 9) 英語に「役割語」は存在するのか? 山木戸浩子
 (P 10) 「シダイ」の節構造：時制・動名詞・格 田川 拓海

◇退 会

国内通常会員：43名

国内学生会員：1名

在外通常会員：1名



◇本学会の委員（現評議員）、事務局長を務められた坂本比奈子氏は、2013年11月13日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

◇本学会の危機言語小委員会委員長を務められた奈良毅氏は、2014年1月20日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

◇本学会の顧問（元会長）の庄垣内正弘氏は、2014年3月23日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。